

地域のみなさまへ

●地域貢献事業の推進

本学は、様々な地方公共団体や各種団体と連携して地域貢献事業を行っています。

京都市動物園、名古屋市東山動植物園と連携して、野生動物に関する教育研究を行うとともに、地球社会の調和ある共存に貢献することを目的とした「野生動物研究センター」を平成20年4月1日付けで設置しました。

また、人間・環境学研究科では京都市、滋賀県長浜市との間で「風雅※1の町づくり」を目的とした「風雅の社会科学」の教育・研究を推進し、この「風雅の社会科学」を実地で検証・研究することにより、その成果を町づくりに反映し、地域の様々な課題の解決に役立てるよう、連携交流協定を締結しました。

さらに、平成19事業年度は、フィールド科学教育研究センター及び地球環境学堂が中心となり、京都府立北桑田高校との間で、本学が開発した間伐材利用の建築工法(j.Pod工法※2)を中心とした試作・講義をはじめ、森林に関する幅広い講義などを同校の実習に取り込むことで、高大連携を図ることとしました。なお、同校は、環境省主催の二酸化炭素(CO₂)削減活動の中から優れた取り組みを選ぶ「ストップ温暖化『一村一品』大作戦全国大会」において最優秀賞に選ばれています。

※1 「風雅」とは、質素な住まいのなかで風雅を追求した芭蕉のひそみにならい、自然の恵みを享受し、人間は「自然内存在」であると自覚している伝統的な自然観を「風雅」(宮廷風の「みやび」ではない)と定義しています。

※2 「j.Pod工法」とは、国産地域材の積極的利用と耐震木造建築を目指して、本学が産学共同開発したものです。

●公開施設

和歌山県白浜町にある瀬戸臨海実験所水族館は、博物館相当施設の指定を受けて一般に公開している水族館です。また、総合博物館では、標本資料等による常設展示のほか、春秋の企画展示などを通して本学の学術資料を広く社会に公開しています。このほか、附属図書館や大学文書館による企画展などを開催しています。

●環境報告書と環境への取り組み

本学は、平成18事業年度より、環境報告書を作成し公表しています。本報告書では、広範囲の環境データを公開しているほか、ステークホルダー(利害関係者)委員会を立ち上げ、学生や地域のみなさまほか多くの方々の意見を取り入れるよう努めています。

本報告書に掲載されているエネルギー使用量やコピー紙使用量などの削減については、環境負荷の軽減のみならず、大学の財務改善にもプラスの効果が見られると期待されています。

また、平成19事業年度は、環境配慮活動における課題と取り組みを示した「京都大学環境計画」を定めるとともに、省エネルギー及び温室効果ガス削減を目的とした「京都大学環境賦課金」制度を創設しました。



平成20年4月18日 京都市(京都市動物園)との連携に関する協定調印式が行われました。
門川大作京都市長(左)と尾池和夫総長(右)



平成20年6月18日 名古屋市(名古屋市東山動植物園)との連携に関する協定調印式が行われました。
尾池和夫総長(左)と松原武久名古屋市長(右)

●生涯学習の場や機会の提供

平成19事業年度は、「森のしくみとその役割」や「こころの未来セミナー」、「霊長類研究所 創立40周年記念行事 ジュニア公開講座『この手でさわってみよう』」など公開講座を20件以上、各分野で活躍する本学卒業生が講演を行う「京都大学未来フォーラム」を5回開催しました。その他にも、中学生向けのジュニアキャンパスやシニアの方を対象としたシニアキャンパス、こどもからおとなまで家族みんなで楽しく学べる「夏休み学習教室 体験EXPO」、各種公開講演会など、より多くの皆様に学習の機会を提供するよう努めています。

入場料収入

(単位:百万円)

区分	17年度	18年度	19年度
瀬戸臨海実験所水族館	25	26	28
総合博物館	6	7	6
計	31	33	34

入場者数

(単位:人)

区分	17年度	18年度	19年度
瀬戸臨海実験所水族館	58,292	61,413	65,763
総合博物館	29,930	38,223	36,070



京都大学環境報告書2007(平成19年7月公表)